

1. 到達目標

A) 一般目標

耳鼻咽喉科は主要な感覚器(聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚)、上部呼吸器と上部消化器、コミュニケーション、表上表出器が関係するため臓器別、系統分類別でも多くの多臓器を強い有機的結合を持っている。したがって診療にあたっては常に全身・全人格の中に位置づけて相対する態度を育成する。機器・器具、薬品等にも出来るだけ親しんでもらいたい。

また、他科に進んでからも耳鼻咽喉科が示すデータ・所見を理解し、患者への説明・治療にフィードバックできる知識を習得する。

B) 行動目標

- (1) 患者および診療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。
- (2) 患者に対して適切な問診および耳鼻咽喉科学的所見をとることができる。
- (3) 耳鼻咽喉科領域における基本的な検査法および手技を理解し実施できる。
- (4) 患者の問題点を把握し、適切な治療法を提示できる。
- (5) 症例提示ができる。
- (6) 手術の助手、外来での介助ができる。

2. 方略(On the job training(OJT))

(1) 実地研修一般

1. ローテート開始時には、臨床研修指導医・上級医を面談し、自己紹介、研修目標の設定を行う
2. ローテート終了時には、フィードバック面接シートの記載とともにフィードバックを受ける。

(2) 外来

1. 診療の見学、介助を行い診療の流れを把握し、診察方法、診療技術を学ぶ。
2. 新患については可能な限り予診を担当し一通りの診察を行い、その結果や所見をカルテに記載する。
3. 出来る限り外来での検査(眼振検査、咽頭、中耳ファイバー)に習熟し、所見を理解できるようにする。
4. 紹介状を的確に記載できるようにする。

(3) 手術室

1. 手術予定患者を予習理解し、局所所見および画像所見を提示出来て、予定手術法を説明できるようにする。
2. 手術に助手として参加し、臨床研修指導医・上級医の指導のもと術者になることもある。
3. 執刀医による家族への手術結果の説明に参加する。

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間を持ち、話し合いを行う。

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来研修	手術室での手術研修	外来、入院患者診察の研修	手術室での手術研修	外来、入院患者診察の研修
午後	外来検査・外来手術の研修、手術室での手術研修	手術室での手術研修	外来検査・外来手術の研修	手術室での手術研修	入院患者診察の研修、外来検査・外来手術の研修